

目次

巻頭言	北川雄光
編集にあたって	袴田健一

第1章 消化器外科総論

1. 消化器外科学の位置づけ	
1) 消化器疾患に対する外科手術の位置づけ	北川雄光 1
2) 消化器外科医の倫理とプロフェッショナリズム	袴田健一 3
2. 栄養と代謝	
3) 栄養評価とサルコペニア	海道利実 6
4) 周術期の栄養管理	比企直樹 11
3. 周術期管理	
5) 手術侵襲と生体反応	深柄和彦 16
6) 術前準備	阪本良弘 22
7) クリニカルパス・ERAS [®] ・静脈血栓塞栓症対策	鍋谷圭宏 31
4. 外科感染症と対策	
8) 外科感染症と抗菌薬の使い方	福島亮治 36
9) ウイルス性疾患に対する患者管理と医療者対策	久保正二 43
5. 臓器移植	
10) 本邦における死体および生体臓器移植の現状	江川裕人 47
6. 内視鏡外科	
11) 内視鏡外科手術の歴史と現状	宇山一朗 54
12) 内視鏡外科手術の特徴と安全管理	猪股雅史 59
7. 医療倫理	
13) インフォームド・コンセント	前田正一 62
14) 医療情報と個人情報保護	塚田敬義, 松橋延壽 65
15) ゲノム医療に必要な医療倫理と遺伝カウンセリング	田辺真彦 69
16) 終末期医療	児玉 聡 72
17) 利益相反 (COI)	田邊 稔 75
8. 医療安全	
18) 医療安全と医療事故対策	永野浩昭 78
9. 臨床研究と統計学	
19) 臨床研究と倫理指針	土岐祐一郎 83
20) 臨床研究デザインと統計学	康永秀生 89
10. 保険診療とビッグデータ	
21) 医療費と医療保険制度	瀬戸泰之 93
22) National Clinical Database	掛地吉弘 97

11. COVID-19 と消化器外科手術	
23) COVID-19 と消化器外科手術	日比泰造 100

第2章 がん診療総論

1. がんの生物学	
1) がん細胞の生物学的特徴	高橋秀和, 森 正樹 106
2) 発がん機構と遺伝性腫瘍	新井正美 108
2. がんの疫学	
3) 我が国のがん対策とがん統計	若尾文彦 113
3. 外科病理学	
4) 病理診断	牛久哲男 121
5) バイオマーカー	野村幸世 125
4. がん診断	
6) 画像診断—長所短所/使い方	蒲田敏文 128
7) がんの内視鏡診断	阿部展次 132
8) 腫瘍マーカー	正木忠彦 136
9) がんの進行度と RECIST による治療効果判定	吉川貴己 140
5. 手術治療	
10) がん手術の Terminology	
一根治手術, conversion 手術, 救済手術,	
減量手術, 緩和手術	大嶋陽幸, 島田英昭 144
6. 放射線治療	
11) 消化器癌に対する放射線治療の進歩	山田 滋 148
12) IVR とがん治療	荒井保明 154
7. 化学療法	
13) 化学療法	石川敏昭, 植竹宏之 157
8. 分子標的治療	
14) 消化器がんにおける分子標的治療薬	馬場啓介, 朴 成和 170
9. 免疫療法	
15) 免疫療法	山口佳之 176
10. 個別化治療	
16) precision medicine	宮田辰徳, 馬場秀夫 182
11. がん悪液質	
17) がん悪液質	高山浩一 185

第3章 食道

1. 食道外科総論	
1) 食道外科の歴史	松原久裕 194
2) 食道の解剖	小澤洋平, 亀井 尚 199
3) 食道の生理機能—食道運動検査	野間和広 203
2. 食道の良性疾患	
4) 食道の構造異常	本山 悟, 森井真也子 207

5) 食道アカラシア	小村伸朗	212
6) 胃食道逆流症・逆流性食道炎・食道裂孔ヘルニア	矢野文章	217
7) 特発性食道破裂	菊池寛利, 竹内裕也	221
8) 食道良性腫瘍	宮崎達也	225
3. 食道癌		
9) 食道癌の病理	新井富生	228
10) 食道癌の診断	小柳和夫	230
11) 食道癌の治療法選択	眞柳修平, 北川雄光	239
12) 胸部食道癌に対する手術（切除）	安田卓司	248
13) 胸部食道癌に対する手術（再建）	白川靖博	254
14) 胸部食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術	竹内裕也, 菊池寛利	259
15) 胸部食道癌に対する縦隔鏡下食道切除術	藤原 齊	263
16) 頸部食道癌に対する手術	山崎 誠	266
17) 食道癌手術の周術期管理	小池聖彦	270
18) 食道癌に対する内視鏡治療	小山恒男	275
19) 食道癌に対する根治的化学放射線療法	加藤 健	278
20) 進行食道癌に対する集学的治療	渡邊雅之	280
21) 食道癌治療後の経過観察	森田 勝, 藤也寸志	285
22) 再発食道癌に対する治療	牧野知紀, 土岐祐一郎	288
23) 進行・再発食道癌に対する姑息的治療と緩和治療	七戸俊明	295

第4章 胃・十二指腸

1. 胃外科総論		
1) 胃外科の歴史	小寺泰弘	298
2) 胃の解剖	篠原 尚	303
3) 胃の生理機能	持木彫人	309
2. 胃・十二指腸の良性疾患		
4) 胃・十二指腸の良性疾患に対する外科治療	和田則仁	314
3. 胃癌		
5) 胃癌の疫学	宮代 勲	317
6) 胃癌の病理	牛久哲男	323
7) 胃癌の診断	秋山浩利	330
8) 胃癌の進行度分類	利野 靖	335
9) 胃癌に対する治療法選択	木下敬弘	338
10) 胃癌における術式選択	藤原義之	345
11) 胃癌に対する内視鏡的切除	小野裕之	349
12) 胃癌に対する幽門側胃切除術（切除）	大辻英吾	353
13) 胃癌に対する幽門側胃切除術（再建）	市川大輔	358
14) 胃癌に対する胃全摘術（切除）	桜本信一	362
15) 胃癌に対する胃全摘術（再建）	黒川幸典	367
16) 胃癌に対する幽門保存胃切除術	布部創也	370
17) 胃癌に対する噴門側胃切除術	中村公紀	373

18) 胃癌に対するその他の縮小手術 —センチネルナビゲーション手術による 胃局所（楔状）切除術・分節切除術……………	高橋直人	376
19) 胃癌手術の周術期管理……………	田中浩明	379
20) 胃切除術後障害と対策……………	藤原俊義, 菊地覚次	388
21) 胃癌に対する化学療法・分子標的療法……………	沖 英次	395
22) 胃癌に対する術後補助化学療法, 術前補助化学療法……………	木下 淳, 伏田幸夫	400
23) 切除不能進行・再発胃癌に対する集学的治療法……………	石神浩徳	405
24) 胃癌術後のフォローアップ……………	細田 桂	408
25) 進行・再発胃癌に対する外科治療……………	大内田研宙	412
4. 食道胃接合部・残胃癌		
26) 食道胃接合部癌の外科治療……………	瀧口修司	416
27) 残胃癌の外科治療……………	夕部由規謙, 福永 哲	420
5. 非上皮性胃腫瘍		
28) 消化管間質腫瘍（GIST）……………	高橋 剛	423
29) GIST 以外の非上皮性胃腫瘍と神経内分泌腫瘍 ……………	窪田 健	428
6. 十二指腸腫瘍		
30) 十二指腸腫瘍の外科治療（Vater 乳頭部腫瘍を除く）……………	新地洋之	433
7. 肥満症に対する外科治療		
31) 肥満症（糖尿病を含む）に対する外科治療……………	太田正之	436

第5章 小腸・大腸

1. 大腸外科総論	
1) 大腸外科の歴史—大腸癌, 炎症性腸疾患, 家族性大腸腺腫症の外科治療の変遷—	川村幹雄, 問山裕二 443
2) 大腸の解剖と生理機能	絹笠祐介 449
2. 小腸・大腸の良性疾患	
3) 発生異常	高橋孝夫 456
4) 炎症性腸疾患	池内浩基 462
3. 遺伝性大腸腫瘍	
5) 遺伝性大腸腫瘍	石田秀行 472
4. 大腸癌	
6) 大腸癌の病理診断	河内 洋 479
7) 大腸癌の遺伝子変異	三森功士 484
8) 大腸癌の診断	藤井正一 489
9) 大腸癌に対する治療方針	橋口陽二郎 498
10) 大腸癌に対する内視鏡的切除	高丸博之, 斎藤 豊 505
11) 結腸癌手術の原則と術式選択	國場幸均 509
12) 結腸癌に対する結腸右半切除術	山口茂樹 514
13) S状結腸癌に対するS状結腸切除術(開腹・腹腔鏡) —手術適応, 切除・再建術式—	内藤 剛 520
14) 直腸癌手術の原則と術式選択	猪股雅史 526
15) 直腸癌に対する低位前方切除術(開腹・腹腔鏡)	金光幸秀 530
16) 直腸癌に対する腹会陰式直腸切断術	石原聡一郎 538
17) 大腸癌手術の周術期管理	斉田芳久 547
18) 人工肛門造設・閉鎖と管理	仕垣隆浩, 赤木由人 553
19) 閉塞性大腸癌に対する治療戦略	五井孝憲 559
20) 大腸癌に対する薬物療法	三嶋秀行 563
21) 大腸癌に対する放射線療法	池田正孝, 別府直仁 572
22) Stage IV大腸癌に対する集学的治療法	市川靖史 576
23) 大腸癌術後のサーベイランス	上野秀樹 583
24) 直腸癌局所再発に対する治療	関本貢嗣 587
5. その他の悪性腫瘍	
25) その他の小腸・大腸の悪性腫瘍	小森康司 590
26) 後腹膜腫瘍・原発不明癌	秋吉高志 595
6. 肛門疾患	
27) 肛門良性疾患	佐藤美信 598

7. 小腸移植	
28) 小腸移植	上野豪久 605

第6章 肝臓

1. 肝臓外科総論	
1) 肝臓外科の歴史	國土典宏 609
2) 肝臓の解剖	小暮公孝, 調 憲 615
2. 肝臓の良性疾患	
3) 肝良性疾患に対する外科治療	折茂達也, 武富紹信 623
3. 肝癌	
4) 肝腫瘍の病理	中島 収 626
5) 肝腫瘍の診断	池上 徹 631
6) 肝細胞癌の治療法選択	有田淳一, 長谷川潔 636
7) 肝内胆管癌の治療法選択	皆川卓也, 板野 理 639
8) 転移性肝癌の治療法選択	小松昇平, 福本 巧 643
9) 肝予備能評価	大坪毅人 647
10) 肝硬変の術前管理	高槻光寿 654
11) 肝切除術の基本手技 (1)	青木 琢 657
12) 肝切除術の基本手技 (2)	本田五郎, 有泉俊一 662
13) 肝癌に対する外側区域切除	小林 剛, 大段秀樹 667
14) 肝癌に対する右葉切除	伊藤良太, 齋浦明夫 674
15) 腹腔鏡下肝切除術	伴 大輔, 田邊 稔 680
16) 肝切除術の術後管理	佐野圭二 684
17) 肝癌に対する局所療法	高見裕子 687
18) 肝癌に対する IVR・放射線治療	浅山良樹, 大賀才路 689
19) 消化器外科に必要な肝癌薬物療法の知識	波多野悦朗 691
4. 肝移植	
20) 肝移植治療	戸島剛男, 吉住朋晴 694
21) 生体肝移植	増田雄一, 副島雄二 702
22) 脳死肝移植	江口 晋, 曾山明彦 707

第7章 脾臓

1. 脾臓の外科	
1) 脾臓解剖と脾臓疾患	吉田 寛 713
2. 門脈圧亢進症	
2) 門脈圧亢進症の外科治療	居村 暁, 島田光生 716

第8章 胆道

1. 胆道外科総論	
1) 胆道外科の歴史	中郡聡夫 721
2) 胆道の解剖と生理機能	大塚将之 726

2. 胆道の良性疾患		
3) 胆石症	谷 真至	733
4) 腹腔鏡下胆嚢摘出術	渡邊 学	739
5) 急性胆管炎・胆嚢炎	遠藤 格	744
6) 胆嚢良性隆起性病変	味木徹夫	749
7) 胆道閉鎖症	林 豊, 永川裕一	753
8) 膵・胆管合流異常と先天性胆道拡張症	力山敏樹	757
3. 胆道癌		
9) 胆道癌の病理	若井俊文	763
10) 胆道癌の診断	吉富秀幸	767
11) 胆道癌の治療法選択と周術期管理	海野倫明	772
12) 肝門部領域胆管癌に対する手術	江畑智希	777
13) 遠位胆管癌・乳頭部癌に対する手術	木村憲央, 袴田健一	781
14) 胆嚢癌に対する手術	水野修吾	787
15) 胆道癌の化学療法・放射線療法・緩和治療	片寄 友	791

第9章 膵臓

1. 膵臓外科総論		
1) 膵臓外科の歴史	川井 学	794
2) 膵臓の解剖と生理機能	堀口明彦	799
2. 膵臓の良性疾患		
3) 急性膵炎	江口英利	805
4) 慢性膵炎	元井冬彦	809
3. 膵癌		
5) 膵癌の病理	西和田敏, 庄 雅之	814
6) 膵癌の診断	江口英利	821
7) 膵癌に対する治療法選択	仲田興平, 中村雅史	827
8) 膵癌に対する膵頭十二指腸切除術	高橋進一郎	831
9) 膵癌に対する膵体尾部切除術	平野 聡	838
10) 膵手術の周術期管理	藤井 努, 渋谷和人	843
11) 膵癌に対する化学・放射線療法	里井壯平, 山本智久	848
4. その他の膵腫瘍		
12) 嚢胞性膵腫瘍	大塚隆生	853
13) 膵神経内分泌腫瘍	廣野誠子	858
5. 膵臓移植		
14) 膵臓移植	剣持 敬	861

第10章 救急外科・ヘルニア

1. 急性腹症		
1) 急性腹症総論	真弓俊彦	867
2) 急性腹症の外科治療 (1) 上部消化管穿孔	國崎主税	872
3) 急性腹膜炎の外科治療 (2) 下部消化管穿孔	山本聖一郎	876

4) 急性虫垂炎の外科治療	荻野崇之, 水島恒和	881
5) 大腸憩室症に対する治療戦略	小林宏寿	885
6) 腸閉塞の外科治療	古畑智久	887
7) 虚血性腸疾患の外科治療	池永雅一	892
2. 外傷外科		
8) 腹部外傷総論	溝端康光	898
9) 腹部外傷各論	渡部広明	903
10) 重症急性腹症・外傷の集中治療	藤田 尚	909
3. ヘルニア		
11) 鼠径部ヘルニア	三澤健之	917
12) 鼠径部ヘルニア手術（腹腔鏡下手術）	早川哲史	928
13) 腹壁ヘルニア・骨盤壁ヘルニア・内ヘルニア	中西正芳	933